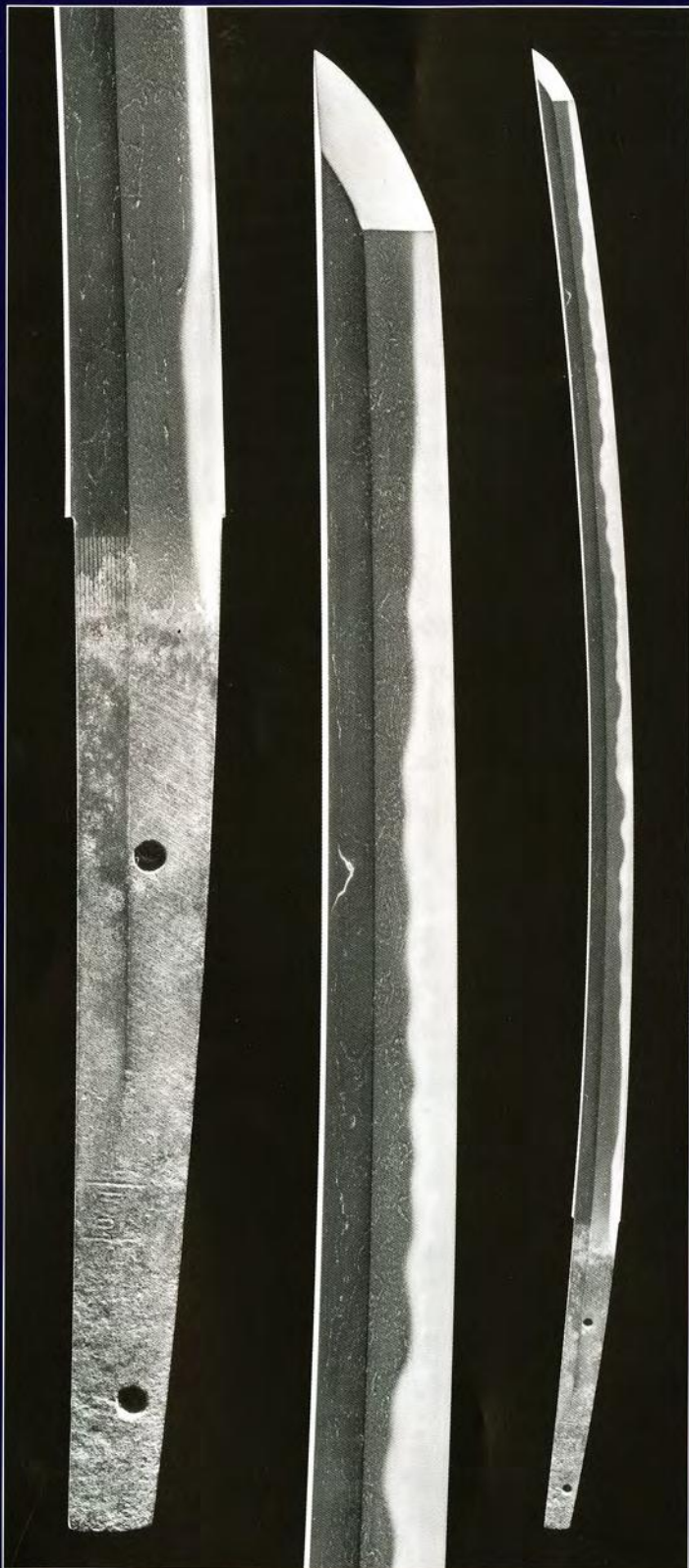




博物館だより

第46号



太刀 銘 吉房

太刀 銘 吉房 備前国 鎌倉時代

ここに紹介するのは、鎌倉時代中期の備前国一文字派を代表する刀工、吉房の太刀です。幕末の川越藩主松平周防守の家臣太田家に伝来し、このたび、御子孫の太田敬氏の御厚志によって当館に御寄贈いただきました。

太田家は周防守家において年寄の要職を務めた家柄です。家譜によれば、太田家の遠祖、太田主膳重記は周防守家2代康重に召し抱えられ、関ヶ原の戦いや大坂の陣に参戦したと伝えられます。明治元年(1868)の『分限帳』での石高は420石となっています。

この太刀は、刃長2尺2寸8分(69.3cm)、反り6分(1.8cm)、鎬造、庵棟、中切先で腰反りの高い太刀姿。地金は小板目で淡く乱れ映りが立ち、刃文は大丁子乱れに重花丁子が交じりたいへん華やかです。棟筋には相手と斬り結んだ際の斬り込み傷が残り、この太刀が駆け抜けてきた幾多の戦いを想わせます。

太田氏の寄贈資料の中には、この吉房の太刀のほかにも9口の刀剣があります(別表)。

弘利の太刀(2)は国別・時代が不明ながらも「川向」の号をもちます。太田家の遠祖、主膳重記の佩刀として大切に伝えられてきました。信国の短刀(5)は、本来1尺2、3寸の小脇指だったものを折り返して短刀としたもので、ふんわりと沸のついた耳形の乱れ刃や三鈷剣・梵字の彫刻などに、応永年間(1394~1428)頃の信国の特徴がよく表れています。永禄(1558~70)年紀の祐定(7)は、無反りで重ね厚く、切先鋭い「鎧通し」と呼ばれるスタイルの短刀です。

江戸時代の刀剣では、加賀国初代兼若の刀(8)や大坂・三品派の丹後守来直道の刀(10)など、江戸初期から前期にかけての著名工の作刀がありました。

No.	種別	銘	国別	時代
1	太刀	吉房	備前	鎌倉
2	太刀	弘利造	不明	不明
3	脇指	無銘	加賀	南北朝
4	短刀	無銘	山城	室町
5	短刀	信国	山城	室町
6	脇指	無銘	備前	室町
7	短刀	備州長船祐定/永禄□年八月日	備前	室町
8	刀	賀州住兼若/元和三年二月日	加賀	江戸
9	脇指	備中守橘康広/(菊紋)	摂津	江戸
10	刀	丹後守藤原来直道作/(菊紋) 一延宝二年五月吉日	摂津	江戸

別表 太田敬氏寄贈刀剣一覧

教室で授業をするのと同じように 博物館を活用してみませんか!



はじめに

当館では年間を通し、たくさんの小・中学生の入館があります。当館まで徒歩で来るのが不便な市内の小・中学校にはバスを配車しています。それ以外にも川越市内をはじめ、埼玉県内、東京都、群馬県などからたくさんの小・中学生が見学に訪れています。そこで今年度の博物館見学に来た子どもたちと引率の教員について述べたいと思います。

1 今年度のバス利用から

今年度も、市内の小学校6年生の博物館見学引率教員に対し、事前の説明会を行いました。そのなかで「教室で授業をするのと同じように博物館を活用してみませんか」ということを教員に提案しました。

教員は、学校で授業のはじめに黒板を使って学習のねらいや学習内容を子どもたちと確認し、授業の終末には、子どもたちの学習成果を拾って子どもたち相互の成果にするなど、学習のまとめをします。そこで博物館では黒板は使えませんが、大きな紙を用意するなどして学習のねらい等を提示したらどうでしょうかという提案をしました。

これに応じてくれた市内小学校6年生の一例を紹介します。事前に用意した学習のねらいを教員がいねいに提示し、子どもたちに説明しました。さらに展示物を見る視点を書いたヒントカードをいくつかの展示場所に置き、展示物から分かったことをノートに取るように呼びかけたので、子どもたちは学校の授業と同じように安心して学習活動を進めることができました。

さらに学習を進めてい

る子どもたちの中に当館の展示解説員が入り、詳しく説明したり、質問に応じたりしました。こうして、子どもたちの学習活動が意欲的になっていったのです。

学習のまとめの段階になると教員は子どもたちを集め、子どもたちの学習成果をたくさん紹介しました。最後に展示解説員も「みなさんと楽しく学習できてうれしかったです」と感想を述べることができました。

ややもすると引率教員は子どもたちと一緒にになってしまい、学習のはじめから最後までを展示解説員に任せってしまうことがあります。これでは学習効果は期待できません。下の写真のように、学校の教員が学習のはじめとまとめを子どもたちの方を向いて指導することが大切です。教員の指導があって、はじめて展示解説員の説明が生きてくるのです。これが博学連携の形だと思うのです。

2 子どもたちの課題意識と教員の対応

総合的な学習の時間で入館した東京都内のある中学校の例を紹介します。当館では見学に先立ち、下見の打ち合わせを行っています。その際、子どもたちに配る作成途中の資料を見せていただいたのですが、川越



子どもたちの方を向いて指導する教員

の歴史や文化財について細かく調べていました。昨年使用した資料だけでなく、新しく調べた資料も追加されているようでした。そばで聞いていて、感心させられるような内容でした。これらの資料を調整することで、子どもたちが使いやすいしおりになるのだらうと思いました。

このようにして作成されたしおりを持って子どもたちが入館しますが、これらのしおりを子どもたちが活用しきれない場

合を見かけます。子どもたちが立てた学習課題もしおりに載せるようにするとよいと思います。

いつ、どこに行って何をするという行動計画の事前指導は、どの学校でも確実に行われているようですが、学習活動についての計画はそうでない場合もあるようです。社会科や総合的な学習の時間で入館する場合は、子どもたちに事前の課題を立てさせ、細かく指導することが大切でしょう。

3 なぜ、博物館へ来て学習するのか

博物館は教育施設であり、学習効果をあげるための有効な施設です。展示物は実物であったり、実物と見違えるほど精巧なレプリカであったりします。教科書に写真で掲載されている資料を実際に見ることができる場合があります。博物館を効果的に使うととても意義のある教育活動が展開できるのです。

また、当館では展示解説員がいるので、展示解説員の説明を博物館見学のなかにうまく生かすことができます。それにはどのように計画したらよいのでしょうか。

そのための第一は、学習のねらいをどう設定するかということです。第二は、子どもたちの学習をどう成立させるかということです。

いずれも学習活動を展開するうえでの基本的な内容だと思います。この内容を無理なく設定できるかどうか、子どもたちの学習活動を大きく左右することに



子どもたちの中で説明する展示解説員

なります。

第三は、学習のねらいにせまるために博物館でどのような学習活動ができるかを調べておくことです。教員が館内の展示物をどうプログラムするかが重要です。そのとき職員や展示解説員と相談してください。そしてどの展示物を使ってどんな学習活動が展開できるかをシミュレーションしてほしいと思います。

まとめ

たくさんの小・中学生が当館の見学に来ています。特に中学生の場合、グループで入館することが多いです。教員は複数のチェックポイントを設定し、子どもたちの行動を把握しているようです。ところが社会科や総合的な学習の時間での見学ですと、学習を成り立たせることが必要になってくると思います。学習活動が順調な場合でも、子どもたちへの声かけは大切です。そうでない場合にはなんらかの支援を行うべきでしょう。子どもたちへの支援を心がけ、チェックだけの役割にならないようにしたいものです。

これから博物館見学に来る学校の教員に対し、どんなことをポイントに提案できるかを考えていきたいと思えます。

以上、博物館でも学校と同じように子どもたちに確かな学びを展開させたいという思いで述べてみました。

(教育普及係 馬橋泰雄)

教育普及係から はにわと土器作り

子ども博物館教室・夏休み子ども体験・土器作り講座

本年度は、はにわと土器作りの講座を三つ開催しました。そのうち二つは子どもを対象にしたもので、子ども博物館教室「はにわ作り」と夏休み子ども体験「ミニ縄文土器作り」です。また、一般成人と親子を対象とした「土器作り講座 縄文土器作り」も開催しました。これらを開催順に紹介したいと思います。

【子ども博物館教室 はにわ作り】 ……7月16日(土)開催

はにわは古墳の上や周囲に並べられたもので、円筒はにわや壺形はにわ、また、人物・動物・家屋などの形を模した形象はにわなどがあります。

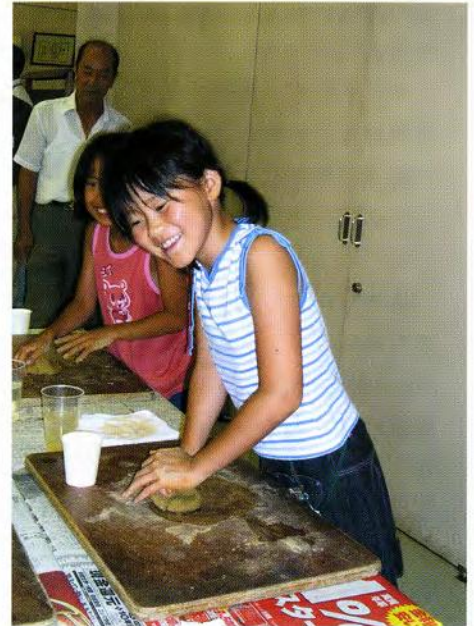
今回の子ども博物館教室では、「踊るはにわ」と「盾持ち人」から一つを選んで作りました。



完成したはにわは、8月9日(火)から21日(日)まで博物館中庭に展示し、一般の方にも見ていただきました。川越縄文土器の会の指導のもと、表情や手の形などにオリジナリティあふれる平成のはにわの展示は、けっこう壮観でした。

【夏休み子ども体験 ミニ縄文土器作り】 ……8月4日(木)開催

縄文時代は今から約12000年～約2300年前までの約10000年間を指し、植物採集・狩猟・漁撈を生業とした社会でした。川越市内でも約40か所の遺跡が確認されています。



【土器作り講座 縄文土器作り】 ……10月2日(日)開催

一般成人と親子を対象としたこの講座では、2kgの粘土を使って大作に挑みました。今回も川越縄文土器の会が指導に当たっています。

当初、1日で形が出来上がるか不安でしたが、作業をテキパキとこなし予定より早く完成しました。



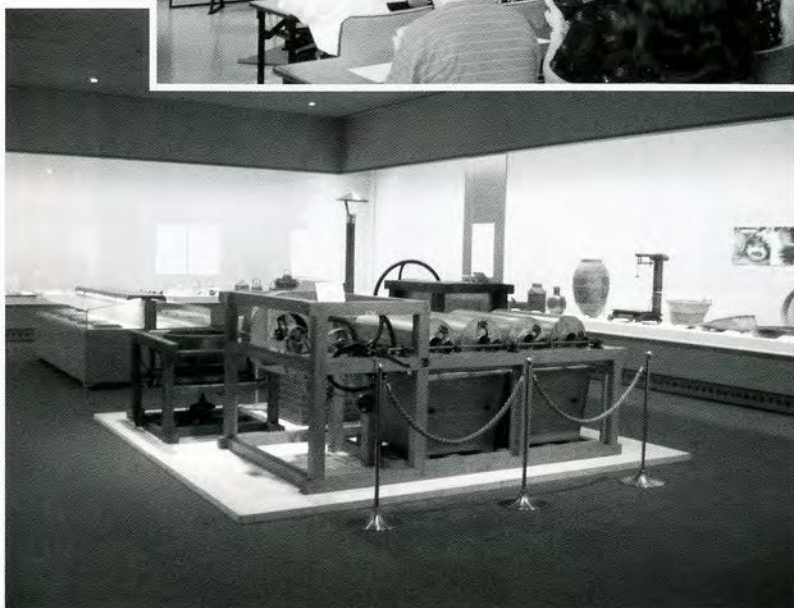
各教室・講座とも定員を越す参加があって盛況でした。今回の教室・講座を通じて当時の人たちの技術の高さ、作るための工夫、造形のセンスなどを知ってもらえたのではないかと思います。

博物館には実際に出土した土器やはにわも展示しています。みなさんも、ぜひ、お出かけください。

第15回収蔵品展「暮らしの中のお茶文化」

当館では、平成17年7月23日から9月19日にかけて、「暮らしの中のお茶文化」と題して、農家で使われた製茶の道具・機械類をはじめ、煎茶碗などの喫茶の道具や川越地方の茶の湯文化に関する歴史資料を展示しました。中でも、川越ゆかりの高林謙三が発明した製茶機械は特に来館者の方々の興味を引いたようで、機械の構造や製茶の工程などに注目され、熱心に御覧になる方が多くいらっしゃいました。

最終日の9月19日には、川越茶友会の御協力により、関連事業「茶席体験」を当館の体験学習室にて開催しました。当日は、敬老の日でもあり、多くのお年寄から小さな子どもたちまで、華やかな雰囲気にも包まれた立礼式の茶会を体験していただきました。参加者の方々にとっては、茶道という日本の伝統文化を体験できる貴重なひとときとなったようです。



民俗芸能実演「石原のささら獅子舞」

当館では、毎年11月3日(文化の日)川越に伝わる民俗芸能の実演を関係者の御協力を得て開催しています。今年には県指定無形民俗文化財「石原のささら獅子舞」を実演しました。当日は天候にも恵まれ、山の神に先導された先獅子(雄)、中獅子(雌)、後獅子(雄)が、笛方の笛や花笠と振袖で着飾ったササラッコのささらに合わせて、太鼓を打ち鳴らしながら舞う姿に多くの参加者が見入っていました。

「石原のささら獅子舞」は、毎年4月の第3土曜日、日曜日、市内石原町1丁目観音寺境内にて行われています。

伝えられるところによると、この獅子舞の始まりは慶長12年(1607)からと言われ、寛永11年(1634)川越藩主酒井讃岐守忠勝が若狭小浜(現福井県小浜市)に国替の折に、雌雄2頭の獅子頭を連れ去り一時中断しましたが、宝永6年(1709)に高沢町(現元町2丁目)の井上家から獅子頭が奉納され再興したと言われています。この獅子舞は一人立獅子舞の系統で、曲目は十二切と称する12の部分からなっており、石原のシシマイ、ササラシシマイ、ササラともいわれています。



Information

平成18年3月までの予定です。

講座・教室 etc.

行 事	日 程	申し込み
●博物館歴史講座 「古典文学でたどる川越の歴史」	2月12日(日) 2月19日(日) 2月26日(日)	2月2日(木) 午前9時～
●子ども博物館教室 「昔の織物に挑戦」	3月4日(土)	2月4日(土) 午前9時～
●博物館歴史講座 「川越の建物」	3月12日(日) 3月19日(日) 3月26日(日)	3月2日(木) 午前9時～

※変更の場合もあります。申し込み方法も含め、詳細については、「広報川越」を御覧ください。
お問い合わせは、博物館まで。

土 曜 体験教室

各月2回、土曜日に開催しています。
博物館に遊びに来てください。

- 会場 川越市立博物館
- 時間 午前10時～11時30分と
午後1時30分～3時30分

実施日	内 容	申し込み日	実施日	内 容	申し込み日
平成17年 12月24日	お正月飾りを作ろう	12月2日(金) 午前9時～			
平成18年 1月14日	まゆ玉を作ろう	1月5日(木) 午前9時～	1月28日	手作りおもちゃで遊ぼう	当日先着
2月11日	昔の単位ではかると どれくらい?	当日直接	2月25日	おひなさまを作ろう	2月1日(水) 午前9時～
3月11日	昔の土笛作り	3月1日(水) 午前9時～	3月18日	クラフト飛行機作り	3月3日(金) 午前9時～

※詳細は当館にお問い合わせください。

こ 紹 介

〈博物館受付でお求めいただけます〉



第二五回企画展
民間信仰のかたち

— 地域と講 —
A4判 六四頁 六〇〇円

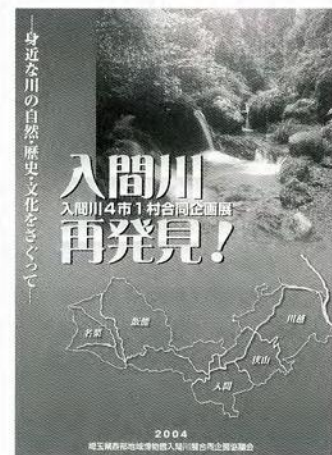
市内の各地区で行われていた
さまざまな講を取り上げ、人々
の祈りの姿を紹介しています。



第二六回企画展
中世陶磁への招待

— 地中からのメッセージ —
A4判 八〇頁 七〇〇円

県内の中世遺跡から出土した
代表的な陶磁器や土器を展観し、
埼玉県ならではの
中世陶磁史を
紹介しています。



入間川四市一村合同企画展
入間川再発見

— 身近な川の自然・歴史・文化をさぐって —
A4判 一三六頁 九〇〇円

入間川の同じ流れにむすぶ4
市1村が、それぞれの特性を活
かして、川と人々との関わりを
多面的に紹介しています。

第16回ミニ展

むかしの勉強・むかしの遊び

平成18年1月19日(木)～3月5日(日)

御好評をいただいているミニ展「むかしの勉強・むかしの遊び」の季節がやってきました。家族みんなで囲んだ食卓、味噌汁の香りがたどよう台所、十円玉を握りしめて通った駄菓子屋、木のぬくもりが感じられる教室など、むかしなつかしい情景が博物館によみがえります。また、昭和130～40年代の生活用具・家電製品・教科書・遊び道具なども展示します。おじいちゃん・おばあちゃん・お父さん・お母さんも子どもの頃を振り返って、御家族皆さんで御覧ください。



第27回企画展「川越の大絵馬」(仮題)

会期：平成18年3月25日(土)～5月14日(日)

絵馬とは、人々が祈願や感謝のしるしとして神社に奉納した板絵を言います。絵馬には、様々な願いの内容を図案化した小絵馬と、武者や物語、社寺参詣などを描いた扁額形式の大絵馬があります。大絵馬は、画題の多彩さと地元の絵師などが関わっていることなどから、絵画資料としても貴重なものです。今回の企画展では、川越市内の神社に奉納された大絵馬を中心に展示する予定です。

利用の御案内

◆入館料

区分	博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館	共通入館(観覧)券		
				●博物館 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●蔵造り資料館	●博物館 ●本丸御殿 ●蔵造り資料館 ●美術館
一般	200円 (160円)	100円 (80円)	100円 (80円)	300円	300円	450円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	50円 (40円)	150円	150円	220円

※()内料金は、団体[20名以上、1名につき]の場合

- ◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(休日の場合は翌日の火曜日)
第4金曜日(休日・休翌日を除く)、年末年始(12月28日～1月4日)
館内消毒(6月下旬予定)、特別整理期間(12月中旬予定)
- *開館時間・休館日は、博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館とも同様(館内消毒・特別整理期間は、博物館のみ休館)

交通案内

東武東上線・JR川越線 川越駅より
または西武新宿線 本川越駅より
東武バス「札の辻」下車徒歩8分
・御来館の際は、なるべく電車、バスを御利用ください。



発行日 平成17年12月12日

発行 川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1

☎049-222-5399 FAX 049-222-5396

Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp

http://www6.ocn.ne.jp/~kawahaku/